

「東北の森」香り付き写真集

東日本大震災の被災地を「香り」で支援する取り組みが始まった。東北の森をイメージした香りを付けた写真集やうちわを販売し、売り上げの一部を、被災地で活動するNPO団体などに寄付する。

取り組みの名称は「aroma for Tohoku」。アロマセラピストの大橋マキさんが主宰するアロマブランド「aromamora (アロマモラ)」の責任者、志伯健太郎さんが発案した。

仙台市出身の志伯さんは、震災で荒れた景色を見て、自

然豊かな本来の東北の姿を風化させたくないと思いをこめ、大橋さんが緑豊かな東北をイメージして、グレープフルーツやモミなどの精油をブレンドした爽やかな香り

売り上げの一部
被災地NPOへ



「東北の美しい風景を思い起こしてほしい」と話す志伯さん（東京都港区で）

を作り出した。

写真集（3980円）は、アルバムを模した布張りの箱に、東北6県で撮影された50枚の写真が入っている。公募で集まった約500枚から選んだ。オイルを染みこませたコースターを箱に入れて、写真を見ながら香りを楽しむことができる。うちわ（1000円）は、宮城県石巻市の子どもたちが描いた柄などがあり、すべて一点もの。表面にオイルを吹き付け、あおぐ度に香りがするようにした。

写真集、うちわの販売数は共に1000。売り上げの一部は、被災地で子どもの心のケアを行うNPO団体など3

くらし 家庭

団体に寄付する。志伯さんはと話している。

「香りは記憶や思い出と深くつながっていると思う。この香りでも美しい東北を思い出して、被災地を応援してほしい」
写真集のうちわは、アロマモラのホームページ（<http://www.aromamora.jp/>）などで販売している。